



修郎先生の事件簿2

小池雄一氏

～就労ビザ専門会社の現場から～

佐生修郎（さしゅう・しゅろう）は就労ビザ専門会社で働くコンサルタント。その幅広い知識と長年の現場経験、それに深い洞察に基づきさまざまなアドバイスを行い、数々の困りごとを解決してきた。座右の銘は「真面目に不真面目」。

大谷翔平 大変だ、大変だ、今月末に赴任予定の佐々木君の就労ビザ、その申請プロセスがなかなか進まないのだ。

佐生修郎 期待の「令和の怪物」も就労ビザがおりなきや赴任できなからね。

大谷 当初の入国予定日で航空チケットを既に買ってしまったのに、困るよ。

佐生 最近のプロセス遅延の多くは、労働省内での処理の滞留が原因だ。前回も伝えたように、労働省内で外国人管理の管轄部署で8割の人員が入れ替わった。ベテラン職員のほとんどは姿を消し、今はまったく新しい顔ぶれで対応している。

大谷 そのため「判断基準の硬直化」と「スキル不足による作業遅延」そして「バックログの増大」が起きているのだね。

佐生 「判断基準」に関しては、規定通りの厳格で約子定規な運用が為されている。新人さんでは、現実の現場状況が踏まえられた柔軟な判断が出来ないからね。

特にポジション名は労働大臣決定書（ポジション名称リスト）への準拠が徹底

されて柔軟性を失っている。大谷 それには具体例があるよ。今回、佐々木君を販売戦略アドバイザーで申請したのだけど否認されてしまった。ポジション名称リストに販売戦略「マネージャ」はあるけど、「アドバイザー」は無い。それが理由だった。

佐生 従来の運用だったから、現場を知っているベテラン職員の判断で、リスト上に「〇〇マネージャ」とあったら、柔軟に読み替えてくれて「〇〇アドバイザー」も許可されていたのね。

大谷 もうひとつ言いたい。書類審査の段階で雇用契約書ドラフトに渡航者本人の署名が無いとの事で否認された。今までは本人の署名無しでも審査は通過していたのだ。申し送り事項として後付けでの提出でOKだったからね。

佐生 かなり厳密に書類チェックをしているようだね。重箱の隅をつついていく感がある。

大谷 スキル移行先のインドネシア人（TKIP EMDANPING）の書類とWAJIB LAPOR R雇用報告システム内のデータとの不整合が指摘されたこともある。

佐生 当局の各種システムが相互連繋を始めたからね。各企業はしっかりシステムの仕組みを理解しながら、データの整合性を意識して当局システムに向き合う必要があるぞ。

大谷 書類を正確に揃えて、データも正しく入力する。それは当たり前だ。でも、行き過ぎた厳密さでチェックするのもしかと思ふよ。

佐生 「過ぎたるは及ばざるがごとし」かあ。んん、何とも言えないねえ。

大谷 否認されて、修正し、それをまた申請し直す。その繰り返し「バックログの増大」そして「作業遅延」に繋がっているのだと思ふよ。

佐生 EXPOSEインタビュー（審議官との申請内容精査のための面談）の実施アポもなかなか取れないよ。

どうする労働省？！

いようだね。

大谷 以前は申請日から2〜3日後にはEXPOSEインタビューが設定されてアポが取れていた。それが今では申請日から8〜10日後の日付が予約日として設定されてくる。

佐生 かなり遅くなったね。それではスケジュールが後ろズレするはずだよ。

大谷 更に悪いことに、アポ当日にスカイプで何度コールしても繋がらない事もあるのだ。そして次の日に持ち越して再度コールする。

佐生 そんな繰り返しをやっているから、更に待ち行列が溜まってしまふ。

大谷 一体どう対処するつもりなのだろう、労働省は？

佐生 人海戦術だ。

大谷 えっ？

佐生 最近の土曜日と日曜日は、上司からの指示で多くの担当職員が休日出勤をして処理を進めていると聞いたよ。

大谷 ありがたいけど、ちよっと残念。処理方法の改善や審議基準の見直しとか、そういう対応策を講じて欲しかったのだけど。それでこの状態はいつまで続くのだろう？

佐生 今の労働省は「沼」にハマってもがいている感がある。新人審議官が慣れるまで、最低でも半年間はこんな状態であることを覚悟しておいた方がよさそうだ。

大谷 ええっ？では、佐々木君はどうしたら良いのさ？

佐生 まずは、希望的観測を捨て、酷い現状を鑑みた現実的なスケジュールを作成する。そして、入国を早めたいのであれば、就労ビザ以外の別のビジネスビザでの入国を図る。例えば、C18就労予定者トライアルビザで入国する。入国

後、労働省プロセス完了後に国内に居ながらITASへコンバージョンする（ALTUS・ステータス変更処理）。

大谷 どんなにこちらが机をたたき唾を飛ばして急ぐように言っても彼らは急には変わらない。

佐生 だから、酷い現実を一旦受け止め、冷静に善後策を施す。それを繰り返す。

大谷 わかった。シタバタしても変らないのなら、状況を楽しむ事にするよ。困難な時にでも心に余裕を持って対処する。なんか精神力を培う修行道場に居る感覚になってきたよ。

佐生 そうだ、この修行はインドネシアの駐在員にしか出来ない特権なのかもしれない。若い翔平君にはこの特権を活かして欲しいな。期待しているよ。

こいけ・ゆういち FPCインドネシア代表取締役。89年学習院大卒、日本アイ・ピー・エム入社。フジスタップへ転職後インドネシアでの事業開発を手掛ける。帰国後に独立。「夢ある街のたいやき屋さん」FC経営を経て、12年8月より現職。栃木県生まれ。58歳。

※本連載は、実際に起きた事例を参考に、インドネシアに滞在、就労する上で気を付ける点について説明するもので、登場人物や事象はフィクションです。実際の事案に対応する場合は、専門家に相談の上、各自のご判断でご検討ください。

「修郎先生の事件簿2」は、原則、毎月第1水曜に掲載します。

佐生修郎、心得えの条

一 就労ビザの申請に関して、労働省での審査状況が混乱を極め沼と化している。いつもより長めの所要時間を見込んだ入国スケジュールを立てること。

二 労働省の対応がすぐに改善されるとは考えにくい。この酷い状況を楽しむ位の余裕が持てる精神的な強さを培う修行道場に居ると思ひ込むこと。